

センターレポート 2013

目次

巻頭言	1
副学長（情報担当）・情報メディア基盤センター長 村田 嘉弘	
主体的学習促進支援システム LACS の概要と導入に向けた取り組みについて	2
情報メディア基盤センター 古賀 掲維	
ノートパソコン必携化への準備について	10
情報メディア基盤センター 柳生 大輔	
教養教育カリキュラムにおける情報メディア基盤センターの役割	16
情報メディア基盤センター 丹羽 量久	
情報セキュリティのマネジメント体制を具体化 ISMS 認証（ISO/IEC 27001）取得	22
情報メディア基盤センター 上繁 義史	
情報コミュニケーション学会第 11 回全国大会報告	29
情報メディア基盤センター 丹羽 量久	
情報コミュニケーション学会第 11 回研究会報告	35
情報メディア基盤センター 藤井 美知子	
センター利用状況	37
編集後記	42

おことわり

平成 26 年度（2014 年度）より、情報メディア基盤センターは ICT 基盤センターに改組しておりますが、本レポートが平成 25 年度のものであるため、所属は当時のものを記載しております。

巻頭言

副学長（情報担当）
情報メディア基盤センター長
村田 嘉弘

松田副学長の後任として、平成 25 年 10 月 1 日に副学長（情報担当）及び情報メディア基盤センター長を拝命いたしました。

昭和 44 年 12 月に設置された電子計算機室は、情報処理センター（昭和 54 年）、総合情報処理センター（昭和 63 年）、情報メディア基盤センター（平成 16 年）と名を変えながら大きく育って参りました。センターに求められる役割が変化するにつれ、センターは名を変え、体制を変え、常にその変化に柔軟に対応して参りました。

情報メディア基盤センターに求められてきたものは、マルチメディアコンテンツに対応できる情報インフラの整備と安定的な運用です。しかしながら、学内の各業務や教育研究に ICT を導入することで業務や教育研究の質の向上が可能な時代になるにつれ、従来のインフラ整備のみに限らず、特定業務や教育研究に特化した高度なシステムの導入と運用がセンターに求められるようになりました。情報メディア基盤センターはそれらの要望にも応えて来ました。主体的学習促進支援システム（LACS）の構築やノートパソコン必携化の準備といった、長崎大学の学士教育改革への ICT 分野からの支援などがその典型例です。

しかし、大学の今後の情報化を円滑に推進してゆくには、平成 16 年に定めた学内体制やインフラ整備をミッションとする情報メディア基盤センターでは限界に来ていることはセンター教員や大学執行部の認識の一致するところです。

そこで、本学の情報化推進つまり情報政策の実行体制を刷新する仕組み作りを行いました。その結果、情報化統括責任者（CIO）、情報化統括責任者補佐（CIO 補佐）などの役職の規則化と、情報政策の全学的な連絡調整機関である情報政策連絡会議（議長は CIO）の設置が決まりました。情報メディア基盤センターは新たなミッションのセンターである ICT 基盤センターへ改組されます。ICT 基盤センターは情報政策の企画立案・実施・評価・改善という情報政策の PDCA サイクルを実現する機関として位置づけられることになりました。また、新たな情報セキュリティ体制として、最高情報セキュリティ責任者（CISO）、最高情報セキュリティ責任者補佐（CISO 補佐）、情報セキュリティ委員会の設置が規則化されました。

本レポートは情報メディア基盤センターとして発行する最後のレポートとなりますが、これまでのセンターの活動についてご理解を賜りますと幸いです。

新たな ICT 基盤センターの活動や情報政策の推進にあたりまして、皆様の変わりないご協力をお願い致しまして、センターレポート 2013 の巻頭言とさせていただきます。

主体的学習促進支援システム LACS の 概要と導入に向けた取り組みについて

情報メディア基盤センター 古賀 掲維
amnesia@nagasaki-u.ac.jp

1. はじめに

長崎大学における教育改革の一環として主体的学習促進支援システム LACS(Learning Assessment and Communication System)の導入が進められています。主体的学習促進支援システム LACS(以下、LACS)は、2012 年後半から導入の検討が進められ、2013 年前期の試験運用、2013 年後期の先行運用を経て、2014 年度からは教養教育を対象とした本格的な運用が開始される予定となっています。LACS の運用開始に伴い、LACS の運用およびサポートについては情報メディア基盤センターがその責を担うこととなりました。

本稿では、主体的学習促進支援システム LACS の概要と導入に向けた取り組みについてご報告いたします。

2. LACS の構築状況

LACS は、①学習管理機能、②コミュニケーション機能、③ポートフォリオ機能、④分析・可視化(IR)機能の 4 つの機能を有するシステムとして構想されました。LACS の構築は、世界中で広く使われている Blackboard Learn という学習管理システム(LMS: Learning Management System)をプラットフォームとし、必要な機能は Blackboard Building Blocks という拡張機能で追加するという手法で行われています。2014 年 3 月末の時点では、①学習管理機能と②コミュニケーション機能を融合させる形で『授業』機能、『コミュニティ』機能の構築が完了しています。また、③ポートフォリオ機能は 2014 年度に構築される予定となっています。

3. LACS の機能

2014 年 3 月末の時点で、LACS で提供される機能は、(1)連絡事項、(2)メッセージ、(3)資料提示、(4)掲示板、(5)課題、(6)テスト、(7)アンケート、(8)日誌、(9)ブログ、(10)Wiki、(11)シラバス、(12)出欠状況確認、(13)家庭学習時間記録となっています。以下、各機能の概要について簡単にご紹介いたします。

(1) 連絡事項機能

連絡事項機能は、授業(コース)に登録された全てのユーザ(教員、学生等)に連絡事項を通

知する機能です。連絡事項機能では、通知する連絡事項に日時制限(学生に表示される期間)を設定したり、授業内のコンテンツへのリンクを設定したりすることができます。また、これは LACS 全般に共通する機能ですが、組み込みのエディタを用いて書式付きのテキストを作成したり、画像、動画や数式などを挿入したりできるようになっています。

(2) メッセージ機能

メッセージ機能は、授業(コース)に登録されたユーザとメッセージを送受信する機能です。ファイルを添付し、メッセージを送信することもできます。メッセージ機能は LACS のシステム内で閉じた機能となっており、かつ、メッセージを送信した時点で本人確認(長大 ID での認証)が済んでいるため、課題やテストに関する情報も安心してやり取りすることができます。

(3) コンテンツ提示機能

LACS には学生に様々な形式のコンテンツを提示する機能が用意されています。コンテンツには、期間、対象学生、前提条件などで表示制限を設定することができます。代表的なコンテンツには以下のようなものがあります。

- ・ 項目(HTML 形式のテキスト)
- ・ ファイル
- ・ 音声
- ・ 画像
- ・ 動画
- ・ URL リンク

(4) 掲示板

掲示板機能は、授業に関する考えやアイデアを共有するための機能です。学生が特定のテーマで投稿を行うためのフォーラムを様々なオプションを設定して作成することができます。また、フォーラムにおける学生の活動を成績の一部として評価する機能も用意されています。

(5) 課題

課題機能は、学生に成果物をテキスト情報(HTML 形式のテキスト)や添付ファイルとして提出させる機能です。課題機能では、期日や実施回数を指定して課題を作成することができます。また、学生個人に対する課題だけではなく、グループに対する課題を作成することもできるようになっています。

(6) テスト

テスト機能は、オンラインテストを実施するための機能です。テスト機能では、期日、実施回数、制限時間、表示方法等を指定してテストを作成することができます。現在、テスト機能では、①ファイル提出問題、②画像の座標指定問題、③記述問題、④穴埋め問題、⑤

作文問題，⑥質問文作成問題，⑦数式計算問題，⑧数値問題，⑨正誤問題，⑩組み合わせ問題，⑪多肢選択問題，⑫二択問題，⑬評価/リッカート問題，⑭複数回答問題，⑮複数穴埋め問題，⑯文章完成問題，⑰並び替え問題，の 17 種類の質問が利用可能となっています。

(7) アンケート

アンケート機能は、匿名式のアンケートを実施するための機能です。アンケート機能では、期日、実施回数、制限時間、表示方法等を指定してアンケートを作成することができます。現在、アンケート機能では、ファイル提出問題以外のテスト機能で利用できる質問が利用可能です。なお、LACS で記名式のアンケートを実施する場合には、テスト機能を利用する必要があります。

(8) 日誌

日誌機能は、教員と学生のパーソナルなコミュニケーション手段として利用できる機能です。学生が日誌を投稿し、教員がそれにコメントを付けるという形で利用します。学生自身が自らの日誌にコメントを付けることもできますので、日誌機能を用いて省察や振り返りを行わせることも可能です。また、日誌機能における学生の活動を成績の一部として評価する機能も用意されています。

(9) ブログ

ブログ機能は、学生同士が考えや情報を共有するための機能です。学生がブログに投稿を行い、他の学生はその投稿に対してコメントを付けるという形で利用します。ブログ機能では、科目ブログ、個人ブログ、グループブログといった種類のブログを作成することができます。また、ブログ機能における学生の活動を成績の一部として評価する機能も用意されています。

(10) Wiki

Wiki 機能は、学生が共同でページを作成する機能です。作成したページは、クラス内に公開することができます。Wiki 機能では、ページの変更履歴(バージョン)や各学生の貢献度を確認することもできるようになっています。また、Wiki 機能における学生の活動を成績の一部として評価する機能も用意されています。

(11) シラバス

シラバス機能は、授業の NU-Web 上のシラバスを参照するための機能です。シラバス機能を利用することで、特別な設定なしに NU-Web 上のシラバスにリンクを設定することができます。シラバス機能は、NU-Web 上のシラバスを別ウィンドウ(別タブ)で開くようになっているため、利用するにはブラウザのポップアップブロック機能を設定する必要がありますので、ご注意ください。

(12) 出欠状況確認

出欠状況確認機能は、出席管理システム(<https://attend.nagasaki-u.ac.jp>)と連携し、履修

学生の出欠状況を確認できる機能です。教員は一覧表示のページで各学生の集計された出欠状況を確認でき、各学生のページでは、各回の打刻時間も確認できます。なお、LACS の出欠状況確認機能は、出席管理システムのデータを参照しているだけですので、出欠情報の変更は、出席管理システムのほうで行う必要があります。

(13) 家庭学習時間記録

家庭学習時間記録機能は、学生が家庭学習時間を自己申告で登録する機能です。この機能は、学生が LACS を利用せずに行った家庭学習を記録するためのものです。家庭学習時間記録機能では種別(課題, 予習, 復習, その他), 授業の回(1~30回), 時間を指定して家庭学習時間を登録できます。教員は学生やクラスの家庭学習時間を一覧表やグラフで確認することができるようになっています。

4. LACS の利用手順

LACS はネットワークに接続した機器で動作する Web ブラウザがあれば、いつでもどこからでも利用できます。以下、LACS の利用手順について簡単にご紹介します。

(0) Web ブラウザの選択について

LACS では、カスタマイズやサポートの都合上、Mozilla Firefox(<http://www.mozilla.jp/>)という Web ブラウザの利用を推奨しています。その他の Web ブラウザでも LACS を利用できますが、一部表示が乱れたり、不具合が生じたりする現象が確認されていますので、何かおかしいな?と思われたら、最新の Firefox で動作確認されることをお勧めいたします。

(1) LACS へのアクセス

LACS にアクセスするもっとも簡単な方法は Google などの検索エンジンで「LACS」と検索することです(図 1)。他にも LACS の URL(<https://lacs.nagasaki-u.ac.jp>)を直接入力したり、大学の公式ページ等のリンクからアクセスしたりすることができます。



図 1 Web ブラウザでの検索

(2) LACS へのログイン

LACS にログインするには長大 ID が必要です。LACS にアクセスし図 2 のようなログイン画面が表示されたら長大 ID の情報を入力してログインします。また、教職員の方には長大 ID の他に学生の立場での動作を確認していただける学生確認用 ID も発行しています。学生確認用 ID の詳細については、別途、情報メディア基盤センターまでお問い合わせくだ

さい。



図 2 LACS のログイン画面

(3) 授業のコースへのアクセス

LACS にログイン後、授業のコースにアクセスするには、図 3 のホーム画面右上の「授業一覧」から授業を探してクリックします。ご担当の授業が一覧に表示されていない場合、情報メディア基盤センターまでお問い合わせください。

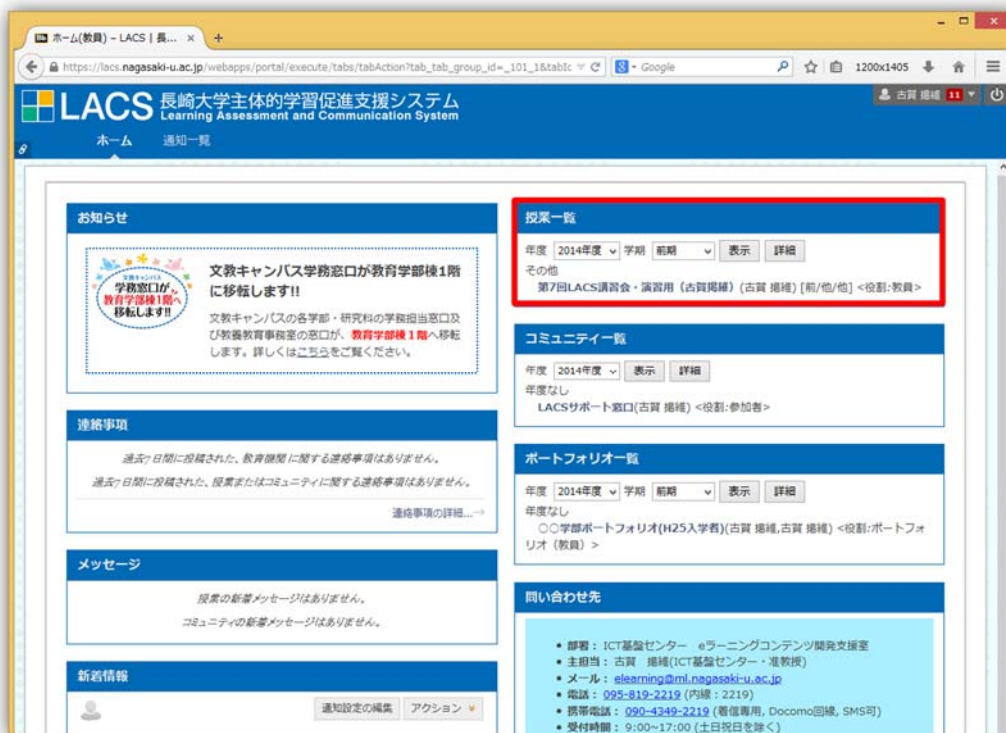


図 3 LACS のホーム画面

5. LACS 講習会の開催

本学の教職員や非常勤職員の方々に LACS について知っていただき、授業に導入していただくため、複数回の講習会を開催いたしました。また、部局で開催される FD でも説明会や講習会を行わせていただきました。2013 年度は、入門編、実践編、上級編や WebClass 移行編というプログラムを開発して講習会を開催しております。

5.1. 入門編

入門編は LACS を初めて利用される方を対象とした講習会です。入門編では、LACS の概要や学生との連絡手段、授業資料の提示方法について説明しています。入門編(第 5 回講習会時)の目次は以下の通りです。

- (1) LACS について
- (2) LACS へのログイン
- (3) LACS の画面構成
- (4) 連絡事項
- (5) メッセージ
- (6) 資料提示
- (7) 登録等について

5.2. 実践編

実践編では、入門編からのステップアップとして、掲示板の活用や、課題を用いたレポート回収、オンラインテストについて説明しています。実践編(第 5 回講習会時)の目次は以下の通りです。

- (1) 掲示板
- (2) 課題
- (3) テスト
- (4) 採点と成績管理
- (5) 参考資料(ループリックについて)

5.3. 上級編

上級編では、実践編を修了した方に向け、コースのカスタマイズ方法、その他ツールの活用、グループ機能について紹介しています。上級編(第 2 回講習会時)の目次は以下の通りです。

- (1) コースのカスタマイズ
- (2) その他ツールの活用
- (3) グループ機能の利用
- (4) 採点と成績管理
- (5) ファイル管理
- (6) 応用演習

5.4. WebClass 移行編

WebClass 移行編では、本学の WebClass ユーザを対象に、WebClass から LACS へのコンテンツ等の移行について説明しています。WebClass 移行編(第 4 回講習会)の目次は以下の通りです。

- (1) WebClass からの移行について
- (2) 移行ツールの使い方

表 1 はこれまでに開催して LACS 講習会や部局 FD の開催状況をまとめたものです。

表 1 LACS 講習会・部局 FD の開催状況

No	名称	開催日	回数	人数
1	第 1 回 LACS 講習会入門編	平成 25 年 9 月 17~20 日	4	129
2	第 1 回 LACS 講習会実践編	平成 25 年 9 月 26~27 日	2	74
3	経済 FD LACS 講習会入門編	平成 25 年 9 月 26 日	1	23
4	坂本 FD LACS 講習会入門編	平成 25 年 10 月 17 日	1	40
5	第 2 回 LACS 講習会入門編	平成 25 年 10 月 22, 24 日	2	29
6	第 2 回 LACS 講習会実践編	平成 25 年 10 月 29, 31 日	2	37
7	保健学科 FD LACS 講習会入門編	平成 25 年 11 月 7 日	1	14
8	第 2 回 LACS 講習会上級編	平成 25 年 11 月 12, 14 日	2	29
9	環境・構造 FD LACS 講習会入門編	平成 25 年 11 月 27 日	1	24
10	LACS 勉強会	平成 25 年 12 月 3,4,10,11,17,18,24,25 日	8	14
11	保健学科FD LACS 講習会実践編	平成 25 年 12 月 5 日	1	14
12	教育学部 FD LACS 講習会	平成 25 年 12 月 24 日	1	15
13	LACS ガイダンス	平成 25 年 12 月 25 日	1	3
14	第 3 回 LACS 講習会入門編	平成 26 年 1 月 14, 15, 17, 21, 22, 28 日	6	52
15	第 3 回 LACS 講習会実践編	平成 26 年 1 月 14, 15, 17, 21, 22, 28 日	6	52
16	多文化社会学部 FD LACS 講習会	平成 26 年 1 月 25 日	1	28
17	第 2 回坂本地区 FD LACS 講習会	平成 26 年 1 月 29 日	1	37
18	教育学部 FD LACS 講習会	平成 26 年 2 月 12 日	1	7
19	第 4 回 LACS 講習会 WebClass 移行編	平成 26 年 2 月 17~21 日	5	33
20	坂本 FD LACS 講習会実践編	平成 26 年 2 月 19 日	1	19
21	経済学部 FD LACS 講習会	平成 26 年 3 月 7 日	1	11
22	第 5 回 LACS 講習会入門編	平成 26 年 3 月 3~7, 31 日	6	101
23	第 5 回 LACS 講習会実践編	平成 26 年 3 月 10~14, 31 日	6	63
合計			61	848

6. まとめ

本稿では、本学で今年度から導入が開始された主体的学習促進支援システム LACS の構築状況や機能、利用手順についてご紹介するとともに、LACS 導入に向けて開催した講習会の内容および開催状況について報告しました。2014 年度からは教養教育において LACS の本格運用が開始されます。本学における LACS の導入がスムーズに進むよう、情報メディア基盤センターでは今後も講習会やサポート体制の強化を行ってまいります。

LACS のサポート窓口

情報メディア基盤センター e ラーニングコンテンツ開発支援室

lacs_support@ml.nagasaki-u.ac.jp

095-819-2219(内線 2219)

※受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日祝日は除く)

ノートパソコン必携化への準備について

情報メディア基盤センター 柳生 大輔

1. はじめに

長崎大学（以下、「本学」と記載します。）では、学習促進支援システム（LACS）と並んで、教育改革のための取り組みとして、平成26年度より新入生のノートパソコン必携化を開始することとなりました。そこで、当センターでは、入学してから4年間の利用に耐え、LACSを始め、様々なシステムが円滑に利用できるよう、大学に持参するパソコンとして必要な基本仕様を検討しました。また、必携パソコンを利用した授業を円滑に行うための準備として、各講義室に講義用無線LANの仕組みを整備しました。併せて、無線LANを経由して、必携パソコンから情報メディア基盤センターが端末教室に設置したプリンタに印刷ジョブを投入する仕組みを導入しました。本報告では、これらの詳細について皆様にご紹介します。

2. ノートパソコン必携化について

平成24年10月に本学が実施した第12回学生生活調査によれば、学部生の92.3%、大学院生の90.8%が自宅などで自学自習に利用できるパソコンを持っており、その中でノートパソコンの所有率が学部生で87.0%、大学院生で86.8%となっていました。デスクトップ

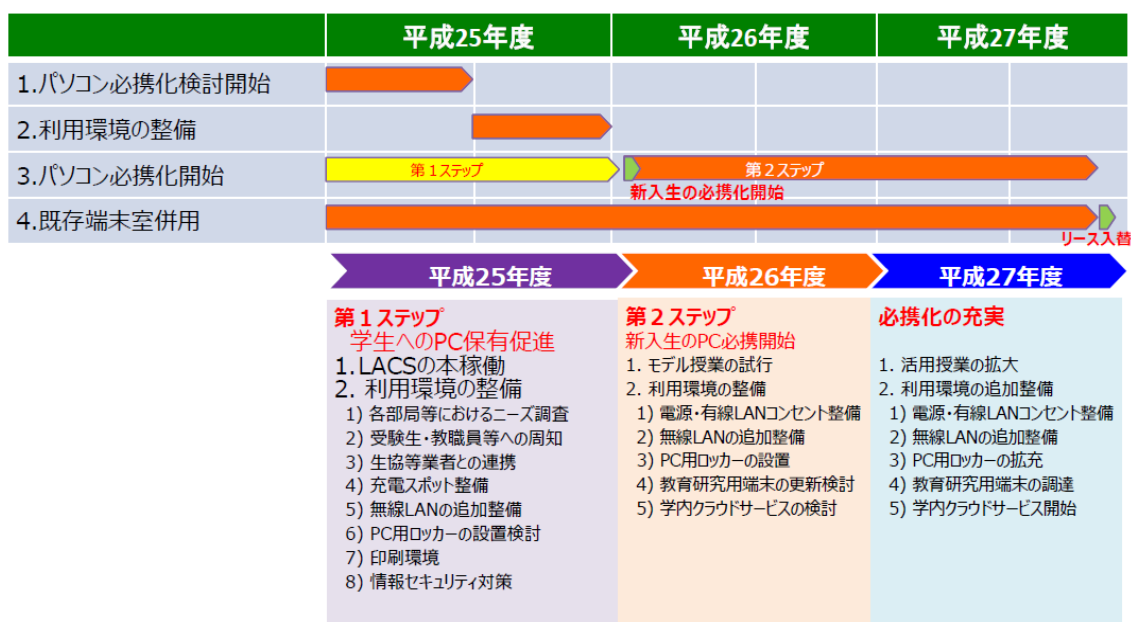


図 ノートパソコン必携化のロードマップ

パソコンについては学部生，大学院生の所有率はそれぞれ 14.8%，29.3%でした。これらのデータから，本学の学生の多くが何らかの形でパソコンを所有している状況がわかります。

そうした中で，本学では，学士教育課程の改革の一環として，パソコンを，授業をはじめとして様々な学習の場に持参して活用することを構想し，パソコン必携化を決定しました。平成 25 年 2 月 26 日の学長・副学長会議を経て，平成 25 年 3 月 18 日の教務委員会で報告されるに至り，本格的にノートパソコン必携化開始のための準備活動が始まりました。平成 25 年 4 月より，受験生や一般に向けての広報活動が始まり，当センターでもノートパソコンの仕様や利用環境などの検討に着手しました。平成 25 年度は，上図のようなロードマップに基づいて活動を進めていきました。

3. 平成 26 年度入学者への推奨機種を選定

基本的な考え方として，最低限必要な機能や性能などをまとめた基本仕様を満たすノートパソコンを持参してもらうことを基本方針とし，新規に購入する入学者については，大学推奨モデルを業者から購入してもらうことを想定しました。そのためのステップとして，以下の事柄について検討しました。

(1) 基本仕様の策定

基本仕様の策定にあたって，学部 4 年間もしくは 6 年間の利用に耐え，本学で提供されている語学教育関連のシステム，LACS などの各種システムにアクセスできる（授業や学生生活の中で必要とされる）機能・性能を有しているといったことを条件としました。まず当センターで試案を作成し，各学部からのご意見をいただいた上で精査を進め，基本仕様の最終案を策定しました。

この基本仕様は平成 25 年 9 月 17 日開催の情報政策委員会において審議，了承され，平成 25 年 9 月 24 日開催の学長・副学長会議で協議され了承されました。内容は下表の通りです。

表 ノートパソコンの基本仕様（平成 26 年度入学者用）

項目	仕様
OS	Microsoft Windows 7/8/8.1
CPU	Intel Core i3 と同等以上
メモリ	2GB 以上
HDD(SSD)	HDD(SSD) 100GB 以上
ディスプレイ	解像度 1,280×720(16:9)または 1,024×768(4:3)以上
外部モニタ	VGA 出力が可能なこと(変換アダプタを利用してもよい)
拡張インターフェース	USB 2.0

無線 LAN	IEEE 802.11 a/b/g
オフィススイート	Microsoft Office Home and Business 2010 以上
セキュリティ対策ソフト	Windows 7 の場合、定義ファイル等の更新が可能な状態のセキュリティ対策ソフトがインストールされていること

(2) 推奨機種を選定

上述の基本仕様をもとに、当時市販されていた機種や平成 26 年度入学時点で販売予定の機種などの仕様の調査、検討を行いました。

表 推奨機種の仕様

項目	仕様
OS	Microsoft Windows 8.1 64bit / Mac OS X 10.9 (※1)
CPU	第 4 世代 Intel Core i5 / Core i3
メモリ	4GB / 8GB
HDD(SSD)	SSD 256GB / HDD 500GB
ディスプレイ	解像度 1,366×768 ~ 2,560×1,440
外部モニタ	HDMI 及び VGA 出力(変換アダプタ利用モデル有)
拡張インタフェース	USB 3.0 / Bluetooth 4.0 / SDXC カード
無線 LAN	IEEE 802.11 a/b/g/n
オフィススイート	Microsoft Office 365 (年間ライセンス) ※大学生協から年間 3,000 円(税抜き)で販売
バッテリー稼働時間	7 時間～20 時間 (モデルによって異なります)
保証とアフターケア	3 年間保証(動産保険付)または 4 年間保証 (動産保険付)
セキュリティ対策ソフト	OS 付属のものを使用(Windows Defender)

※1 生協で販売された MacBookAir は、Windows 8.1 のパッケージと合わせて販売されており (販売価格に含まれており)、Windows/Mac OS X のデュアルブートにすることができる。必携パソコンとして、Mac OS X のままでよいわけではない。

平成 26 年度の長崎大学推奨機種として 5 機種を選定し、長崎大学生協および SCSK 社から販売していただきました。受験生には、パソコン必携化制度、推奨機種や既にパソコンを所有している場合 (基本仕様を満たしていれば新たに購入する必要はない) の案内を入試関係書類に同封するなどして、周知を進めました。表は、平成 26 年度大学推奨モデルとして販売された機種の仕様をまとめたものです。学生が所有している PC の故障原因の多くは、落下や稼働中に動かした、踏んだ等の理由による、HDD 故障・液晶パネル破損、また、飲み物をこぼしたことによる故障であり、自然故障は多くありません。推奨モデルの選定にあたっては、一日の大学生活で必要な稼働時間を有するとともに、前述の事象があっても困ることのないよう、内蔵補助記憶装置は原則として SSD のものを選定し、3 年間ないし 4 年

間の動産保証が付されたものを選定しています。

(3) ノートパソコンを準備できない学生へのサポート

経済的理由によりノートパソコンを準備できない学生については、平成 25 年 5 月にメットライフアリコ生命保険株式会社より寄贈されたノートパソコンを基本仕様に合うように整備した上で貸与することとなりました。

4. 無線 LAN の拡充

本学ではすでにキャンパス内共用の無線 LAN が運用されていましたが、無線 LAN のアクセスポイントは、主に各部局等の会議室や食堂や休憩スペース等学生が課外に集まる施設を中心に設置され、必ずしも授業のように多数の学生が同時に利用することを想定したものではありませんでした。

パソコン必携化やそれに伴う自学自習環境の整備のため、無線 LAN アク

表 無線 LAN アクセスポイントの設置台数の変化

キャンパス	平成 25 年 11 月以前	平成 25 年 11 月以降
文教キャンパス	121 台	254 台
坂本キャンパス	44 台	127 台
片淵キャンパス	13 台	45 台
附属校園・多以良団地	11 台	36 台

セスポイントをほぼすべての講義室、実験室、実習室、体育館、リフレッシュスペースなどに多数増設しました。増設された無線 LAN アクセスポイントは平成 25 年 11 月より稼働しています。

5. 講義用無線 LAN 環境の整備

これまで、キャンパス内共用の無線 LAN では、様々な端末が接続されることから、汎用性を重視し、「2.4GHz 帯」及び「5GHz 帯」のどちらでも利用できるようにしています。このうち、「2.4GHz 帯」については、チャンネル数が少なく、他の無線 LAN、モバイルルータ（のダウンリンク側）、コードレスマウス等でも使用される Bluetooth、テレメータ、家電製品（コードレス電話や電子レンジなど）においても広く利用されている電波帯でもあります。したがって、授業での利用のように多数（たとえば 40 人～100 人程度）の端末を接続しようとするると他の通信と混信し、通信速度が低下したり通信不能となるリスクが高くなります。

そこで、当センターでは旧来・現行の無線 LAN アクセスポイントで対応でき、かつ授業での利用を想定した無線 LAN として、講義用無線 LAN 環境を新たに整備することとしました。これは講義室や建物のフロアといった単位で、個別の SSID（無線 LAN を識別する

名称)を設定し、それぞれの SSID に特有の IP アドレスを配布 (アドレス変換) することで、IP アドレスのキャパシティを確保し、また、LACS 上のテスト等へのアクセスを、たとえば授業を実施する講義室からのみに制限できるようになります。また、使用する電波帯については、混信しやすい「2.4GHz 帯」は使用せず、「5GHz 帯」具体的には IEEE802.11a/n のみとすることで、混信のリスクを低減できるとともに、1 台の無線 LAN アクセスポイントで数十台のノートパソコンが高速で安定的に接続できるようになります。

「5GHz 帯」を用いた場合に無線 LAN アクセスポイント 1 台が、どの程度の通信負荷に耐えられるかを、ノートパソコン 90 台を用いて実験しました。実験結果の概要は以下の通りです。

- Web ページ閲覧や LACS 利用などの通常負荷時
 - 90 台での同時接続試験を行い、全く問題なく利用できることを確認しました。
- 動画再生時
 - 動画サイト (YouTube) の動画を何台同時に再生できるか試験を行いました。
 - 30 台で同時再生する場合は、全く問題なく再生できることを確認しました。
 - 40 台で同時再生した場合に、動画の再生は可能なものの、一部のパソコンにおいて、一時的ながら解像度の低下が見られました。
- ファイルのダウンロード
 - 数十 MB を超えるダウンロードを同時にダウンロードしようとする、遅延が発生しました (同時接続 60 台での事例)。

平成 25 年度は教養教育棟の講義室について講義室用無線 LAN の整備を行いました。具体的な講義室名と無線 LAN の SSID はセンターホームページをご参照ください (学内からのみ閲覧可能)。

平成 26 年度以降、各学部の講義室やフロアについて、順次講義室用無線 LAN を拡充します。

6. ノートパソコンからの印刷機能の整備

学生が作成した文書や授業に関する資料など、ノートパソコン上に保存されているデータを印刷することを想定して、無線 LAN を経由し、本センターが設置した端末教室のプリンタで印刷できる環境を整備しました。利用までの基本的な流れは以下の通りです。

- ① プリンタドライバのインストール (初回のみ。キャンパスごと)
- ② 各種アプリケーション (Word など) のプリンタ選択画面でキャンパス (のプリンタサーバ) を選択
- ③ 長大 ID の入力 (初回のみ)
- ④ プリンタの所へ行き、学生証を IC カードリーダーにかざして印刷を実行

具体的なインストールの方法や利用方法については、センターホームページをご参照ください（学内からのみ閲覧可能）。

なお、この仕組みは Windows の端末のみに対応しています。また、当センター設置のパソコンから印刷した分と合わせて、年間 400 枚の印刷枚数の制限があります。

7. ノートパソコン利用に関する教育について

ノートパソコンのセットアップや無線 LAN, LACS, 学務事務システム, 電子メールなどの ICT インフラの利用方法, Microsoft Office の基本操作, 情報技術などの基礎知識について, 1 年生前期（多文化社会学部のみ後期）に開講される必修科目「情報基礎」の中で教育を行います。「情報基礎」は情報メディア基盤センター教員（6 名）（経済学部夜間主コースのみ学部教員 1 名が担当）が全学部計 32 クラスを担当しており, 統一的なカリキュラムに基づいて授業を行っていきます。

なお, 多文化社会学部については, 学部からのご依頼もあり, セットアップに関する講習会の開催（平成 26 年 4 月）により対応しています。

8. まとめ

本報告では, 平成 26 年度開始のノートパソコン必携化に関して, 仕様策定や推奨機種を選定, また必携パソコンの利用環境に関する整備について紹介しました。情報メディア基盤センターでは, 必携パソコン利用にあたってのサポート窓口を開設するなど, 学生や教職員の必携パソコン利用に関するサポートを行っております。授業の中で必携パソコンをどんどん活用いただければ幸いです。なお, 実際の必携パソコンの活用状況等につきましては, FD や本誌次号で御紹介させていただく予定です。

教養教育カリキュラムにおける情報メディア基盤センターの役割

情報メディア基盤センター 丹羽 量久

1. はじめに

情報メディア基盤センターは、必須科目の情報科学科目およびモジュール科目のテーマ「情報社会とコンピューティング」の責任部局を担っている。ここでは、2013年度教養教育カリキュラムにおいて、必須科目の情報科学科目に配置している科目「情報基礎」（2単位）の内容、およびモジュール科目のテーマ「情報社会とコンピューティング」に配置している全学モジュールⅠ科目および全学モジュールⅡ科目について報告する。また、モジュール科目における取り組み内容についても紹介する。

2. 情報科学科目「情報基礎」

全学部の1年生が受講する初年次必須科目の一つで、全30クラス（昼間29クラス、経済学部夜間主1クラス）開講している。統一的な情報教育を行えるように、夜間主を除く29クラスすべてを情報メディア基盤センターの教員が担当している。

授業内容の標準構成は表-1に示す通りで、長崎大学のPC環境、情報セキュリティ、情報の検索・活用と情報倫理、情報のデジタル化、ネットワークの仕組み、プレゼンテーション、文書作成、表計算、HTML、総合演習からなる。

表-1 情報科学科目「情報基礎」の内容

テーマ	回数	授業内容
ガイダンス	1	学習概要、授業で使用するコンピュータ環境、電子メール
情報セキュリティ	1	情報セキュリティとは、利用者・組織が取るべきセキュリティ対策
情報の検索・活用と情報倫理	1	情報検索の仕組みと手法、情報の信頼性と信ぴょう性、情報倫理
情報のデジタル化	1	情報のデジタル化とは、文字・音声・画像のデジタル化
ネットワークの仕組み	1	コンピュータのネットワーク、インターネットの構成
プレゼンテーション	1	プレゼンテーションとは、資料作成上の留意点、PowerPointについて
文書作成	3	Microsoft Wordの操作、文字の書式、段落の書式、ページ

		の設定, オブジェクトの操作, 表の作成, ワープロを用いる利点, 作業環境の設定, スタイル
表計算	4	Microsoft Excel の機能, 基本操作, 数式, 表の書式設定, セルの参照, 関数, 書式の設定, 条件分岐, データの検索, 複数シートを使ったデータ処理, データの並び替え, データの抽出, 集計, ピボットテーブル, グラフ, 表・グラフの印刷, アプリケーションの連携
Web ページ作成	1	HTML, Web ページの作成
総合演習	1	まとめ

3. モジュール科目のテーマ「情報社会とコンピューティング」

テーマ「情報社会とコンピューティング」にはモジュールⅠ科目を三つ, モジュールⅡ科目を六つ配置している。このテーマは, 教育学部, 経済学部, 薬学部, 水産学部の学生が選択できる。

全学モジュールⅠ科目は 2013 年度入学の 1 年生向け科目で, 後期に「情報の活用」, 「情報社会の安全と安心」, 「計算機の科学」の三つを開講した。

また, 全学モジュールⅡ科目は 2012 年度入学の 2 年生向け科目で, 前期に「問題解決のアルゴリズム」, 「情報と社会」, 「ソフトウェアの利用技術」の三つ, 後期に「情報通信とコンピュータネットワークの仕組み」, 「情報化時代の仕事術」, 「情報化の役割と課題」の三つの計 6 科目を開講した。科目「情報と社会」については, 情報社会の実状を分野横断的に学習させるため, 経済学部, 核兵器廃絶研究センター, 工学研究科の協力を得て, 当センター教員とともに授業を計画・実施した。

表-2 に全学モジュールⅠ科目と全学モジュールⅡ科目の到達目標を示す。表-3 と表-4 には, 全学モジュールⅠ科目と全学モジュールⅡ科目それぞれに配置している各科目の概要を示す。

表-2 テーマ「情報社会とコンピューティング」の到達目標

	到達目標
全学モジュールⅠ科目	<ul style="list-style-type: none"> 表計算によるデータ分析, および文書構造を意識したレポート作成ができる 情報セキュリティの取り組み方について概要を説明できる・コンピュータシステムの動作原理を説明できる
全学モジュールⅡ科目	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムの社会での利用事例を理解し, 位置づけを説明できる 情報システムの活用法 (テクニック) を理解し, 応用できる 情報システムで用いられている技術 (テクノロジー) を理解し,

	説明できる
--	-------

表-3 全学モジュールⅠ科目の概要

授業科目	概要
情報の活用	整った報告書(レポート)の効率的な作成に欠かせないデジタル文書作成技法およびデータ分析に応用できる表計算技法の中級レベルについて演習を交えながら学ぶ。
情報社会の安全と安心	情報化社会における,セキュリティ維持について,基本となる考え方を学ぶ。セキュリティ維持に必要な情報技術,ルール,運用の基礎について講義を行う。また,理解を深めるために,情報セキュリティマネジメントに関するグループ学習を行う。
計算機の科学	コンピュータの入力,記憶,演算,制御,出力の各機能の仕組み,基本ソフトウェアとアプリケーションプログラムの動作原理及びデジタルデータの表現方法などの基礎知識について講義を行う。また,課題により,コンピュータ内での情報の表現,OS,アプリケーションプログラム等の理解を深める。

表-4 全学モジュールⅡ科目の概要

授業科目	概要
問題解決のアルゴリズム	プログラムの文法や作法,データ構造,アルゴリズム設計や実装をとおして,情報社会基盤の重要な要素であるプログラミング言語について学ぶ。プログラミング言語の機能を理解し,演習を通じて実際に利用して,簡単なプログラムの読解や作成ができるようにする。
情報と社会	<p>実社会における「情報」について,次の観点から考えます。それぞれを理解し,説明できることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済学的視点から理論とその限界について学ぶ ・ソーシャル・メディアに関する技術的話題に触れる ・医療現場における活用事例 ・「情報」の表現・可視化について
ソフトウェアの利用技術	<p>ある問題を解決していく過程において,長崎大学の端末室で利用できるアプリケーションソフト(画像処理,統計処理,その他)を活用していく方法について,演習を交えながら学ぶ。</p> <p>解決すべき問題に応じて適切なアプリケーションソフトを活用できることを目標とする。</p>
情報通信とコンピューター	コンピュータやネットワークの要素技術や規格・プロトコル

タネットワークのしくみ	等を知ることにより、コンピュータシステムや構成要素がどのような仕組みで稼働しているか、また、どのような性能や信頼性をもって稼働しているかを理解することを目標とする。
情報化時代の仕事術	<p>皆さんは、ライフハック(Lifehacks)という言葉をご存じだろうか？ ライフハックとは「情報処理業界を中心とした『仕事術』のことで、いかに作業を簡便かつ効率よく行うかを主眼としたテクニック群」(WikiPedia)のことである。</p> <p>この授業ではいくつかのライフハックについて演習をまじえて学び、日常生活や学習・研究の場で活用できるようになることを目標とする。</p>
情報化の役割と課題	<p>社会で実際に構築・運用されている情報システムを取り上げて、個人学習とグループ学習によりその価値等について考えます。</p> <p>情報社会における情報システムの役割について理解し、説明できることを目標とする。</p>

当センターのモジュール科目における取り組みの内容や改善等の実施状況を、大学教育イノベーションセンター発刊の「全学モジュール・ニュース」に投稿している。2013年度に発刊された第21号と第34号の記事を以下に示す。

・第21号（平成25年6月24日）

普通教室を利用する科目では、講義を受けた学生が重要と感じた授業のポイントとその説明・理解度、および興味を持ったことや疑問に思ったことを記述する授業ログシートを毎回の授業で活用している。授業終了時に授業ログシートの提出を義務づけていることから、学生を授業に集中させることができている。教員が学生の理解状況を把握することができるので、誤解を正すとともに補足説明するなどのフィードバックを的確に行える。その際、学生に授業ログシートを返却し、必要に応じて誤った認識を訂正させ、関連する補足事項を追記させている。別途、学生には授業ログシートへの記載内容をWebClassに入力してもらっており、毎回60名ほどの学生の考えを電子データとして得ている。これらをキーワードごとに説明文を並び替えた一覧表にまとめ、入力した学生に提供している。多人数であるためさまざまな見方がある。他者がどのように気づき、考えているかをこれらの学生間で共有させている。

情報端末室を利用する科目「問題解決のアルゴリズム」では、「Webブラウザ上で動作する簡単なプログラムを作成できるようになる」を授業目標に掲げ、HTML、CSS、JavaScriptといったプログラミング言語等について、「反転授業」を導入した授業を行っている。毎回の授業は、①予習課題の確認、②前回課題の解説、③演習内容の説明、④演習、⑤次回予習

「情報と社会」授業ログシート

学生番号: _____ 氏名: _____ 授業日: ____月__日

1 今回の授業のポイント（キーワード）とその説明を書いてください。

ポイント（キーワード）	説明
(a)	
(b)	
(c)	
(d)	

2 各ポイント（キーワード）についてあなたの理解度の程度をチェック（☐）してください。

(a) 友達に説明できる 理解できたが説明する自信はない 理解できなかった

(b) 友達に説明できる 理解できたが説明する自信はない 理解できなかった

(c) 友達に説明できる 理解できたが説明する自信はない 理解できなかった

(d) 友達に説明できる 理解できたが説明する自信はない 理解できなかった

3 興味がわいたこと、疑問点、感想、意見などを具体的に書いてください。

図ー1 授業ログシート

課題の説明，といった流れで行い，なるだけ多くの時間を④の演習に割いて学生の自主的な学びを促すようにしている。

・第34号（平成26年1月14日）

【モジュールI科目】

3科目すべてで LACS を利用しています。モジュール科目準備経費で整備した電子書籍 Reader をテーマ選択者全員に貸与し，講義資料をダウンロードして閲覧する等，授業内外で自由に活用させています。前年度からいくつか改善を行いました。

科目「計算機の科学」では今期より2クラスに分割し，PC 端末室を利用するようにしました。講義した直後に確認のための演習を行えるようになり，

演習での疑問点は2～3名一組での教え合いにより解決させ，知識と技能の確実な定着を目指しました。毎回の授業後に，小テストの解答や当該授業で学んだことを電子メールで提出させています。

科目「情報社会の安全と安心」の授業計画は座学中心(10回)とグループ学習中心(5回)で構成しています。前者では，毎回の授業でワークシートの課題に取り組ませ，自身の理解度を確認した後，グループで各人の疑問点等を教え合いにより解決させました。また，予習・復習の理解度を LACS 上の日誌に記録させるようにしました。後者では，各回の授業での議論に用いる「自分の意見」を一人一人の学生に予習課題として提出させ，授業ではグループディスカッションさせました。その結果は LACS 上の Wiki としてまとめさせました。後者の形態では，学生が活発に話し合うようになり，成果の質が高くなったように思います。

【モジュールII科目】

後期開講の科目「情報化の役割と課題」では，日々の暮らしで身近に感じるようなテーマを取り上げて，学生生一人一人に個別の調べ学習を課しながら，少人数構成のグループ内の学生間コミュニケーションを通じて知識を共有・深化させる形態の授業を導入しました。e

ラーニングシステム以外の学習支援ツールとして、各回の授業で取り組ませる課題が明確になるようにワークシートを用意しました。この授業は現在進行中ですが、特徴的な取り組みは以下の通りです。

・附属図書館を活用した情報収集

調べ学習に有用な文献を調査させるため、附属図書館の協力を得て、学生に自らパスファインダーを作成させました。学生はこの課題を仕上げないと次の段階に進めないことから真剣に取り組んだようです。ほぼすべての学生が、附属図書館を活用した信憑性が高い情報収集の有用性を改めて認識し、習得した利用方法を今後活用していくことを授業への感想に記述していました。附属図書館には関連図書を新たに多数揃えていただきました。深く感謝いたします。

・学習成果のプレゼンテーション

グループごとに2回のプレゼンテーション機会を用意して、すべての学生に発表させました。初回では、聴講者に、各グループに対する質問および発表でよかったことをeラーニングシステム上の掲示板に投稿させる課題も与えました。次の授業で質問への対応を考えさせ、調査の上、掲示板に回答を投稿させました。学生間の情報共有を狙いました。

その後、調べ学習において疑問を抱いたり興味がわいたりしたことを新たなキーワードとして申告させ、改めて調べ学習を行わせました。この成果を2回目のプレゼンテーションにて発表させますが、持ち時間を初回の2倍に増やし、かつ初回から改善することを課しています。

・ラーニングポートフォリオ

最終レポートとして、授業で学習してきたことをラーニングポートフォリオとしてまとめさせています。過度な負担とならぬように、アウトラインを提示し、これに沿って、提出済みのワークシート、発表スライド等の内容をまとめさせることにしています。学習成果を確実に定着させるため、「何を学んだのか」、「自身の学習への取り組み姿勢はどうであったか」、「学習内容が何に役立つのか」という観点で省察させる項目を含めています。

各科目においてアクティブ・ラーニングの充実に目的としたさまざまな取り組みを行っている。科目「情報と社会」では、他部局の先生方とともに講義主体授業において有効となりえる方法を検討し、実践した。その取り組み内容については、本学大学教育イノベーションセンター紀要[1]に詳細が掲載されている。

参考文献

- [1] 丹羽量久, 正田備也, 福澤勝彦, 三根眞理子, 山地弘起: “講義主体授業における学生の参加度向上を目指した学習課題”, 長崎大学大学教育イノベーションセンター紀要, No.5, pp.19-24, 2013年3月

情報セキュリティのマネジメント体制を具体化 ISMS 認証 (ISO/IEC 27001) 取得

情報メディア基盤センター 上繁 義史

1. はじめに

長崎大学の情報セキュリティ維持において、情報メディア基盤センターと学術情報部情報企画課の果たす役割は大変重要なもので、数々のセキュリティインシデント（情報セキュリティに係わる事故）に対応してきました。

その中で平成 22 年度から始まった第 2 期中期目標及び中期計画の中で、大学の情報セキュリティに関して以下の文言が加わりました。

第 2 期中期目標

「情報マネジメント体制を整備し、情報セキュリティを向上させる。」

第 2 期中期計画

情報資産の安全管理を高めるための体制を整備するとともに、高度情報セキュリティに対応した人材を育成する。」

そこで、情報メディア基盤センターと情報企画課と共同でセキュリティ体制や活動を確認しながら文書化することにより、情報セキュリティの管理体制（情報セキュリティマネジメントシステム（Information Security Management System; ISMS））を明確化していくこととなりました。

ISMS の国際規格として ISO/IEC 27001 があり、ISMS の計画・運用・チェック・改善（いわゆる PDCA サイクル）の設計及び運用の規準となっています。これに従うことが本学における ISMS の明確化の早道と考え、平成 22 年度より準備活動を開始し、平成 25 年 3 月 ISMS 認証の取得に至り、本学の情報セキュリティの管理体制の明確化を達成しました。平成 25 年度はこれを受け、ISMS 活動の平準化を進めてまいりました。認証の継続に関する審査を受審し（平成 26 年 1 月）これにも合格しました。

本稿では、2 章で ISMS の概要をご紹介します。3 章～6 章で平成 22 年度以降の活動を振り返りながら、平成 25 年度までの ISMS に関する諸活動について報告し、7 章では ISMS 活動の学生教育への展開について報告します。

2. ISMS の概要

個別のセキュリティ上の問題を場当たりの発想で対処していると、組織としての一貫したセキュリティレベルを保つことができません。そこで、組織としてのマネジメントが必要となります。そのためにまずは自らがもつ様々な情報資産についてリスク評価を行い、必

要なセキュリティレベルを確保できているかを判定します。判定の結果不十分とされた事柄を中心に、組織の持つ資源（人的資源や情報資産など）を適切に配分して、継続的にセキュリティレベルの維持・向上をはかるためのマネジメント体制を作り上げます。このような情報セキュリティに関するマネジメント体制を ISMS といいます。

(1) ISO/IEC 27001

ISO/IEC 27001 は ISMS の構築や ISMS の PDCA サイクルに基づく運用などに関する国際規格であり、本文である要求事項と日常の運用手順に関する管理策から構成されています。要求事項は ISMS の骨格にあたるもので、ISMS の構築を行うのに、必要な文書の種類や PDCA サイクルの各段階において、どのようなことが実施されなければならないかをまとめたものです（下図参照）。ISMS の認証を受けるには、要求事項の全てを満たさなければなりません。また、管理策は情報セキュリティ維持に関係する人員、場所、機材、書類、記録媒体ほかを管理するための目的と具体化するための考え方が 133 箇条に渡って書かれていて、組織の状況に合わせて、具体的な管理の手法をマニュアル化していくことが求められています。こちらは組織の実情に応じて取捨選択したり、133 箇条以外の管理策を追加したりすることができます。

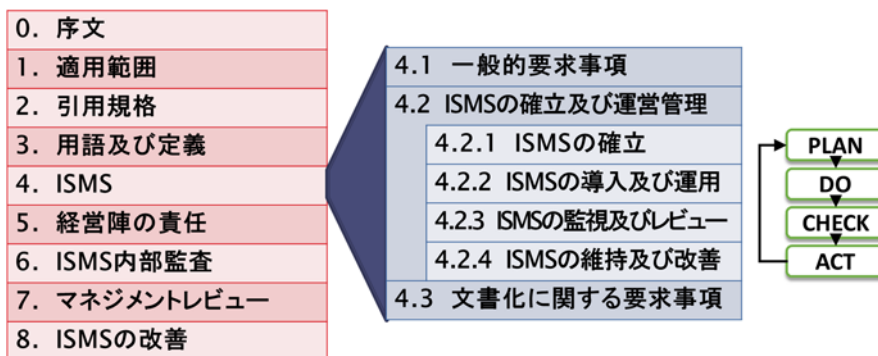


図 ISO/IEC 27001:2005 の要求事項の構成

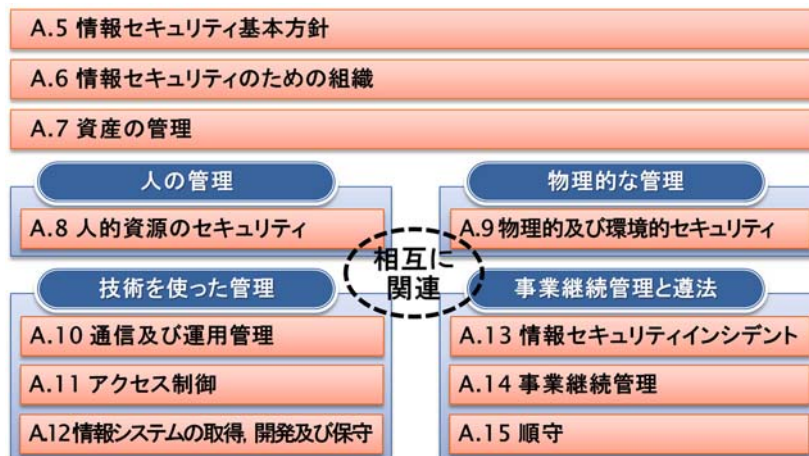


図 ISO/IEC 27001:2005 の附属書 A の構成

3. 平成 22 年度～ISMS に関する調査及び先行的なマニュアル整備

(1) 先行事例の調査

まずは ISMS の理論的な概念について、情報企画課のメンバーとともに調査を行い、並行して先行事例の調査を行いました。先行事例として、平成 22 年 4 月時点で既に ISO/IEC 27001 の認証を取得していた国立大学法人 静岡大学、宇都宮大学、山口大学の状況を、当時の公開記事などから調査しました。

特に山口大学については、平成 22 年 6 月に訪問調査を行いました。その際に静岡大学と TV 会議システムで結び、ISMS の構築、認証取得、運用に関する取り組みについてインタビューを行いました。ここで得た重要な知見は、ISMS が単に大学のセキュリティ維持のための方法であるにとどまらず、「大学としての社会的責任」や「今後大学が被るリスクに対する保険」として必要不可欠なものである、という認識に立つことでした。

インタビューの結果を受ける形で、情報セキュリティマネジメントシステム構築ワーキンググループ (ISMS 構築 WG) を組織し、情報セキュリティに関する現状分析、本学の情報セキュリティのマネジメント体制構築と実施に関する検討を開始しました。WG のメンバーは筆者を含めた情報セキュリティ専門部会委員 4 名で構成しました。

(2) 先行的なマニュアル整備

ISMS では様々なマニュアルを作成し、周知することが要求されていたことから、先行的に統合認証システム (平成 23 年 3 月より稼働) など、一部のシステムについて、センター及び情報企画課向けのマニュアルを作成しました。

4. 平成 23 年度～ISMS 構築の本格活動開始

(1) 学外の ISMS 研修への参加

ISMS を構築するには、上述のように ISO/IEC 27001 の要求事項を満たすように行うのが早道であるとの考えから、ISMS のより詳細な知識 (構築のノウハウや具体的な PDCA サイクルの運用など) について、さらに知見を得るべく、第 4 回 ISMS 研修会 (山口大学主催、平成 23 年 5 月) に参加いたしました。そこでは ISMS 構築に関する演習を交えたより具体的な知見を得ることができ、後の ISMS 構築におおいに役立ちました。

(2) ISMS の具体的な検討

平成 23 年夏以降、山口大学での研修を参考に、具体的な ISMS 構築のための検討に着手しました。まずは以下について検討を開始しました。

- 適用範囲：ISMS を適用する物理的・人的・ネットワーク的な範囲をどのように設定するか。
- 実施体制：センターと情報企画課がどのように連携するか。また実施体制の中で、学内

委員会等との関係をどのように位置づけるか。

- 情報資産の内容：ISMS を適用する情報資産の範囲をどのように設定するか。

5. 平成 24 年度～ISMS の実践，認証取得

(1) ISMS の構築

平成 23 年度に引き続き情報資産のセキュリティリスク分析を行いつつ，並行して ISMS 全体に関するマニュアル群の作成を行いました。平成 24 年度中の認証取得を目指していたので，コンサルタント（トーマツ）の助言を受けながら，文書のブラッシュアップを図っていきました。10 月に素案がまとまり，実施の準備として，情報メディア基盤センター全教員と情報企画課職員を対象とした内部研修を 11 月に実施しました。ここでは，ISMS の概要と遵守するマニュアル群について解説を行いました。後にテストを実施し，定着度の確認を行いました（要員への教育も ISO/IEC 27001 の要求事項に含まれています）。同時に ISMS の目的や基本方針，実施体制などをまとめた「ISMS 基本方針」をセンターの Web を通じて公開しました（最新版は附録参照）。

(2) ISMS の実践

平成 24 年 11 月より ISMS の PDCA サイクルを実施しました。主だった活動としては以下のようなことが挙げられます。

- 業務の中でのセキュリティ活動（データセンターやネットワークの維持等）の実施と記録
- セキュリティ事故の確認（検出）・対応・記録
- ISMS スタッフ会議を通じての情報共有
- 内部監査
- センター長によるマネジメントレビュー（経営層からの活動のレビュー）
- ISMS 文書の更なるブラッシュアップと修正内容の周知

(3) ISMS の認証に関する審査

上述の活動の上で，ISO/IEC 27001 の認証審査を BSI ジャパン社に依頼して，平成 25 年 1 月に受審，無事に合格に至りました。その結果，平成 25 年 3 月 4 日に正式に ISO/IEC 27001 認証取得組織として登録されるに至りました。認証登録の名称は「情報企画課及び情報メディア基盤センターが提供する大学総合情報サービス」で，有効期間は 3 年間です。

ちなみに，本学の ISMS の登録状況は一般財団法人日本情報経済社会推進協会 (JIPDEC) の Web 上で検索することができます。



図 ISO/IEC 27001:2005 認証の証明書 (BSI ジャパン社交付)

6. 平成 25 年度～ISMS 活動の平準化、継続審査対応

この年度では、ISMS 活動をさらに浸透させるために、継続的に実践を進めました。新たな ISMS スタッフに対する教育、通常業務の中でのセキュリティ維持の取り組み、内部監査、マネジメントレビュー、ISMS の改善といった一連の活動を通じて、ISMS を担当するスタッフも認証取得以前と比べてもセキュリティについて意識するようになったという声も聞かれました。スタッフの声を要約すると、以下のようにまとめられます。

- 事務室内の配線及び机上の整理が進んで、職場環境が良くなった。
- 情報セキュリティに関するマニュアル類の整備を進めることで、スタッフ間での確実な共有ができるようになり、セキュリティ活動が効率的に行えるようになった。
- 管理策の検討を通じて、自分たちのセキュリティ活動を総合的に見直すことができ、業務に関する有用な気づきが多くなった。
- 外部業者に対して、ISMS に基づくセキュリティ上の要求を行うことで、お互いに適度な緊張感を持ちながら協業できるようになった。

ISMS の認証は毎年中間審査（サーベイランス審査）があり、平成 26 年 1 月に受審しました。そちらの結果も良好で、ISMS 認証の維持が認められています。

7. ISMS の副次効果～学生教育へのフィードバック

ISMS 構築の経験は、教養教育における情報セキュリティに関する教育にフィードバックされています。学部 1 年前期の必修科目である「情報基礎」では、講義資料（本センターで作成）の 1 章を情報セキュリティに充てていますが、その中で日常のセキュリティ対策に

関する内容を充実させることができました。

また、本センターが責任部局となっている全学モジュール「情報社会とコンピューティング」のモジュールⅠ科目「情報社会の安全と安心」（学部1年後期）において、情報セキュリティに特化した授業を展開しています。その中では、グループ学習による ISMS 構築の演習を行っており、情報資産のリスクアセスメントやリスク対応、管理策の作成などを実践的に学習できるようになっております。

8. まとめ

本稿では、ISMS の活動全体を振り返り、情報メディア基盤センターと情報企画課による情報セキュリティ体制の明確化の過程と、学生へのセキュリティ教育の現状について、報告しました。今後の活動としては、ISO/IEC 27001 が平成 25 年 10 月に改訂されたことに伴い、本学の ISMS も平成 26 年度中にそちらに対応を図っていくとともに、更なるセキュリティ体制の改善を図ることです。また、ISMS は情報メディア基盤センターと情報企画課だけで取り組めば良いというものではありません。学内には様々な情報資産があることから、ISMS の経験に基づく、情報セキュリティの啓発を進めたいと考えます。

（附録）ISMS 基本方針

この基本方針は平成 26 年度時点の最新版です。（以前のものが既に有効でないため）

ISMS 基本方針

制定：平成24年11月9日

改訂：平成25年1月21日

改訂：平成26年4月1日

ICT 基盤センター長

1. 目的

学術情報部情報企画課及びICT 基盤センターは、長崎大学における情報基盤の中核組織であり、管理運営を担っている各種業務系・教育研究系システム及びネットワークシステムの安定的な運用を行うために、情報セキュリティマネジメントシステム（以下、ISMS という）の活動を行います。

また、本基本方針において ISMS の適用範囲及び責任体制を定めて、ISMS の行動規範とします。

2. 基本方針

- (1) 情報セキュリティを確保するために、責任体制を構築し、マニュアルを定め遵守するとともにISMSの運用に携わる者に必要な教育等を行います。
- (2) 関係法令及び本学の規則、情報セキュリティポリシーを遵守し、情報セキュリティの確保を行います。
- (3) 情報資産のリスクに対しては、適切な規準を用いて評価する仕組みを定め、定期的なリスクアセスメントを実施することにより、情報セキュリティの確保を行います。
- (4) 本学の公共性及び教育・研究機関としての特殊性を考慮し、特にシステムの継続的な運用を行います。
- (5) 情報セキュリティの確保を行うために、定期的に内部監査を行い、改善を行うことでISMSの信頼性の向上を継続的にを行います。

3. 適用範囲

- (1) 対象組織：情報企画課及びICT基盤センター
- (2) 対象業務：対象組織が提供する大学情報総合サービス
- (3) 対象資産：対象組織が保有する情報資産（紙媒体も含む）

4. 責任体制

- (1) ISMS 監督者
ICT基盤センター長は、ISMS活動の最高責任者として、その業務を総括する。
- (2) ISMS 管理責任者
情報企画課長は、ISMS管理責任者としてISMS活動に関する管理運営を担う。
- (3) ISMS スタッフ
情報企画課の職員は、ISMSスタッフとしてISMS活動の実務を担う。
- (4) 内部監査責任者
内部監査責任者は、本学の職員よりISMS監督者が指名し、ISMSに関する基本方針、マニュアル、規程、手順について定期的な内部監査の実施を担う。

情報コミュニケーション学会第11回全国大会報告

情報メディア基盤センター 丹羽 量久

2014年3月1日(日)～2日(日)長崎大学文教キャンパス教養教育講義棟において、情報コミュニケーション学会第11回全国大会が開催されました。本学会が創設されてから初めて東京や関西を離れた地での開催となりましたが、二日間で120名の方々にご参加いただき、盛会に執り行うことができました。

二日目に、本学大学教育イノベーションセンターの山地弘起教授に、大会テーマに沿って、自らの意識が感覚に作用するような体験実習を交えた内容でご講演いただきました。

一般研究発表では、「ソーシャルネットワーク」、「教育実践(1)(2)」、「モバイルコミュニケーション」、「ソーシャルメディアとソーシャル・キャピタル」、「情報活用」、「教育支援」、「コミュニケーション(1)(2)」、「教育システム」、「教育デザイン」、「教育方法」というテーマで12セッションが開かれ、計41件の発表が行われました。

以下にプログラムの詳細を示します。

日 時：2014年3月1日(土)・2日(日)

会 場：長崎大学 文教キャンパス 教養教育講義棟

主 催：情報コミュニケーション学会

共 催：長崎大学情報メディア基盤センター

後 援：長崎大学

テーマ：21世紀をつなぐ情報とコミュニケーション ～自律と協働，そしてSNS～

第1日目 3月1日(土)

【一般研究発表1】

A1 ソーシャルネットワーク

座長：田中 康裕(専修大学)

畑 耕治郎(大手前大学)

A1-1 ソーシャルメディアに対するユーザ受容の国際比較ーイギリス・韓国の比較ー

田中 康裕(専修大学)・小舘 亮之(津田塾大学)

A1-2 地方自治体におけるソーシャル・ネットワーク・サービス活用の評価

畑 耕治郎(大手前大学)・石橋 裕基(一般財団法人関西情報センター)

A1-3 スターバックスが提供するカフェテリア空間の市場価値

脇 有夏里(摂南大学)・高橋 沙綾(摂南大学)・針尾 大嗣(摂南大学)

B1 教育実践（1）

座長：上繁 義史（長崎大学）

五月女 仁子（日本女子体育大学）

B1-1 大学新入生の情報セキュリティに関する認識について

上繁 義史（長崎大学）・柳生 大輔（長崎大学）・鈴木 斉（長崎大学）・古賀 掲維（長崎大学）・丹羽 量久（長崎大学）・藤井 美知子（長崎大学）・野崎 剛一（長崎大学）

B1-2 女子体育大学における講義での Web 活用の実践と傾向について

五月女 仁子（日本女子体育大学）

B1-3 学校教育における Facebook 活用の一考察－SNS を利用した学びの共有と振り返り

－

高野 祐季（芦屋大学）・藤本 光司（芦屋大学）

C1 モバイルコミュニケーション

座長：寺尾 敦（青山学院大学）

立野 貴之（松蔭大学）

C1-1 大学生のケータイ利用に関する性差に注目した分析

立野 貴之（松蔭大学）・加藤 尚吾（東京女子大学）・加藤 由樹（相模女子大学）・館 秀典（東京福祉大学）

C1-2 政策実現のための政府によるコミュニケーションの手法－番号制度導入に向けたリ

レーシンポジウム開催を事例として－

本田 正美（東京大学大学院）

C1-3 レポート提出における大学生のスマートフォン使用に関する分析

館 秀典（東京福祉大学）・加藤 尚吾（東京女子大学）・加藤 由樹（相模女子大学）

【一般研究発表 2】

A2 ソーシャルメディアとソーシャル・キャピタル

座長：針尾 大嗣（摂南大学）

吉見 憲二（早稲田大学）

A2-1 日本音楽家間におけるソーシャル・キャピタル

岡戸 久実（早稲田大学大学院）・吉見 憲二（早稲田大学）・樋口 清秀（早稲田大学）

A2-2 オンラインコミュニティにおけるコミュニケーションの委縮に関する研究

吉見 憲二（早稲田大学）・針尾 大嗣（摂南大学）

A2-3 宿泊客のリピーター意向に影響を及ぼす宿泊施設サービスに関する一考察－レビュー

データをもとに構築した累積ロジットモデルを用いて－

逢坂 裕樹（摂南大学）・吉見 憲二（早稲田大学）・針尾 大嗣（摂南大学）

B2 情報活用

座長：柳生 大輔（長崎大学）

寺尾 敦（青山学院大学）

B2-1 電子ブック端末の講義におけるネットワーク利用環境に関する一検討

柳生 大輔（長崎大学）・野崎 剛一（長崎大学）・上繁 義史（長崎大学）

B2-2 純文学賞受賞作品の文体における客観的情報

戸寄 ひかる（早稲田大学大学院）・樋口 清秀（早稲田大学）・吉見 憲二（早稲田大学）

B2-3 ポートフォリオシステムによる大学適応感・教員就職意欲の可視化とその効果

阿部 慶賀（岐阜聖徳学園大学）・吉澤 寛之（岐阜聖徳学園大学）・秋山 晶則（岐阜聖徳学園大学）・佐藤 善人（岐阜聖徳学園大学）・玉井 颯一（名古屋大学）

C2 教育支援

座長：後藤 晶（山梨英和大学）

松永 公廣（名古屋学院大学）

C2-1 長崎大学附属図書館による教養教育科目の授業支援

松田 綾（長崎大学附属図書館）・山本 知美（長崎大学附属図書館）

C2-2 1人1台端末の教育環境におけるサポートデスクの役割と今後の展望ー山梨英和大学の試みー

後藤 晶（山梨英和大学）・杉浦 学（山梨英和大学）・秋月 拓磨（山梨英和大学）・難波 道弘（山梨英和大学）・高橋 弘毅（長岡技術科学大学）

C2-3 カタストロフによる協力行動の促進メカニズムに関する一考察：Catastrophe Cooperation Model の検討

後藤 晶（山梨英和大学）

第2日 3月2日（日）

【一般研究発表3】

A3 コミュニケーション（1）

座長：加藤 尚吾（東京女子大学）

小田桐 良一（園田学園女子大学）

A3-1 大学生の Twitter の使用の性差に関する分析ー複数アカウントの所持と個人情報の公開に注目してー

菊池 沙矢香（東京女子大学大学院）・加藤 尚吾（東京女子大学）

A3-2 会話回数に基づく Twitter 上での友達数上限に関する分析

清水 将吾（学習院女子大学）

A3-3 気配を気付かせるゆるやかなコミュニケーションに関する検討

小田桐 良一（園田学園女子大学）・稲熊 孝直（園田学園女子大学）

B3 教育システム

座長：岩井 憲一（滋賀大学）

工藤 英男（大阪成蹊大学）

B3-1 指導案を利用した教員研修のためのオンラインカンファレンスシステム TeaParty
の試作

岩井 憲一（滋賀大学）

B3-2 エゴグラムのためのWebシステムの構築と試用

富島 磨由美（太成学院大学）、小高 恵（太成学院大学）、吉川 博史（太成学院大学）、
工藤 英男（大阪成蹊大学）

B3-3 大学での学びを見据えた教科情報の教育～高大連携授業を通して専門分野、そして
社会での役割を知る～

宇野 美和（大阪成蹊女子高等学校）・田中 浩子（大阪成蹊大学）

C3 教育実践（2）

座長：松永公廣（名古屋学院大学）

二木映子（宇部工業高等専門学校）

C3-1 特別支援教育におけるデジタル教材の活用について ～質問紙調査およびインタ
ビュー調査の結果より～

喜多 智大（畿央大学）・西端 律子（畿央大学）・高橋 浩（奈良県立奈良養護学校）・
藤川 良純（奈良県立奈良養護学校）・澤井 直子（奈良県立明日香養護学校）

C3-2 FFS 理論を活用したラグビーフットボールの最適チーム編成（2）－生徒の変容と
チーム力の向上－

小澤 俊介（芦屋大学）・藤本 光司（芦屋大学）

C3-3 工業高校におけるコミュニケーション演習と能動的学習(3) —ものづくりを通して
社会人基礎力の育成をめざした授業実践—

堀 木実（京都市立洛陽工業高等学校）・長谷川 友樹（京都市立洛陽工業高等学校）・
山田 康雄（京都市立洛陽工業高等学校）・森口 勇（京都市立洛陽工業高等学校）・
中村 久美子（京都市立洛陽工業高等学校）・松岡 久雄（京都市立洛陽工業高等学校）・
藤森 宏美（京都市立洛陽工業高等学校）・坂根 正敏（京都市立洛陽工業高等学校）・
赤尾 修二（京都市立洛陽工業高等学校）・恩田 徹（京都市立洛陽工業高等学校）・
藤本 光司（芦屋大学）

【招待講演】

演目：コミュニケーションの土壌を探る

ー外舞台と内舞台の人間模様ー

講師：山地 弘起 氏（長崎大学 大学教育イノベーションセンター 教授）

司会：丹羽 量久（長崎大学）

【一般研究発表 4】

A4 教育デザイン

座長：太田 和志（東大阪大学短期大学部）

阿部 慶賀（岐阜聖徳学園大学）

A4-1 タイプ練習ソフトを利用した学生の練習効果分析

二木 映子（宇部工業高等専門学校）・藏崎華織（宇部工業高等専門学校）・戀河内 敦
（宇部工業高等専門学校）・丹羽 量久（長崎大学）・藤井 美知子（長崎大学）

A4-2 ネットショップ作成演習の授業デザインと実践評価

鴨谷 真知子（東大阪大学短期大学部）・太田和志（東大阪大学短期大学部）・
松永 公廣（名古屋学院大学）

A4-3 PBL のピアエデュケーション効果を高める授業環境デザイン

木村 敦（東京電機大学）・武川 直樹（東京電機大学）

A4-4 情報環境学科学生による SNS 市民講座の実践

星野 智子（東京電機大学）・河合 奈都子（東京電機大学）・山本 佑典（東京電機大
学）・大沼 美由紀（東京電機大学大学院）・木村 敦（東京電機大学）

B4 コミュニケーション（2）

座長：加藤 由樹（相模女子大学）

藤本 光司（芦屋大学）

B4-1 デジタルネイティブが上の世代との携帯電話を使ったコミュニケーションにおいて
持つ違和感に関する調査

加藤 由樹（相模女子大学）・舘 秀典（東京福祉大学）・加藤 尚吾（東京女子大学）・
立野 貴之（松蔭大学）・千田 国広（東映アニメーション株式会社）

B4-2 大学での講義中のスマートフォンの私的使用

寺尾 敦（青山学院大学）・伊藤 一成（青山学院大学）

B4-3 企業において必要とされるコミュニケーションスキル ～仕事をスムーズに行うた
めに情報伝達のためのスキルとそのスキルを明確にするためには～

安部 民枝（株式会社アセンディア）

B4-4 中学校技術科における材料加工の教材開発（1）ー地震災害に視点をのいた教材の
一考察ー

森岡 佑介（芦屋大学）・藤本 光司（芦屋大学）

B4-5 初年次教育におけるコミュニケーションデザイン（3）ー基礎演習の授業アンケー

トによる評価と課題ー

藤本 光司 (芦屋大学)・山中 俊一 (芦屋大学)

C4 教育方法

座長：浅羽 修丈 (北九州市立大学)

阪井 和男 (明治大学)

C4-1 教育・学習モデルに基づいた事後教育システムの提案

橋本 はる美 (摂南大学)・堀井 千夏 (摂南大学)・佐井 英子 (摂南大学)

C4-2 iPad と Moodle を用いた大学授業の試行

岩崎 日出夫 (東海大学)

C4-3 視聴者コメントが流れる映像に対して時系列に変化する印象を捉える試み ～ドラマ仕立て CM を対象にした面白さの調査～

浅羽 修丈 (北九州市立大学)・斐品 正照 (東京国際大学)

C4-4 社会との協働プロジェクトにおける学生の情報共有

大岩 稔生 (摂南大学)・久保 貞也 (摂南大学)・牧野 幸志 (摂南大学)

C4-5 東日本大震災ニュースソースとタブレット型電子デバイスのクラウド活用による科学的思考法ワークショップにおける教育効果の解析

阪井 和男 (明治大学)・永井 優子 (明治大学)・齊藤 博美 (ユニアデックス株式会社)・今道 正博 (日本ユニシス株式会社)



情報コミュニケーション学会第 11 回研究会報告

情報メディア基盤センター 藤井 美知子

日時：2013 年 10 月 6 日(土) 10:00～15:00

テーマ：コミュニケーション/一般

会場：長崎大学 情報メディア基盤センター第 2 端末室

主催：情報コミュニケーション学会

共催：長崎大学情報メディア基盤センター

次世代大学教育研究会

「コミュニケーション/一般」のテーマで、長崎大学情報メディア基盤センターにおいて研究会を開催しました。発表は 7 件で、参加者は 30 名でした。本学会の会長阪井和男先生ご挨拶をしていただき、引き続き研究発表会を行いました。研究発表内容は多岐にわたり、活発な討議が行われ充実した研究発表会でした。

研究発表後、ソニービジネスソリューション株式会社よりデジタルペーパーの紹介があり、教育にどのように活用できるかの討論が行われました。その後、自由討論という形で、参加者からの質問に対して自由に意見が述べられました。(研究会担当幹事：藤井美知子・丹羽量久)

7 件の発表プログラムを示します。

1. 武庫川女子大学附属図書館におけるアクティブラーニングの試み：管理主体からサービス主体の図書館への変革を目指して
○平井尊士, 設楽馨 (武庫川女子大学文学部), 川崎安子 (武庫川女子大学附属図書館), 東中 綱利 (NTT 西日本)
2. 予習を前提とした学習による教育内容の充実
○丹羽量久, 藤井美知子 (長崎大学)
3. プレミアム商品に対する消費者の認知モデル
ーシャンプー/トリートメント商品を対象にー
○有田ほし乃, 針尾大嗣 (摂南大学経営学部経営情報学科)
4. 国内菓子メーカーにおけるソーシャルメディアの導入戦略類型
○石寄智裕, 針尾大嗣 (摂南大学経営学部経営情報学科)
5. 情報端末室を利用した工学系専門教育における TEAL の試み
○古賀掲維 (長崎大学情報メディア基盤センター), 戸次翔, 前田弦輝, 森崎雅俊 (長崎大学工学研究科博士前期課程 総合工学専攻構造工学コース), 松田浩 (長崎大学工学研究科)

6. Web コンテンツ作成指導コースの設計

鴨谷真知子, 太田和志 (東大阪大学短期大学部), ○松永公廣 (名古屋学院大学)

7. Web 上で練習できるタッチタイプソフトの作成

○二木映子, 恋河内敦 (宇部工業高等専門学校), 丹羽量久, 藤井美知子 (長崎大学)

情報交換会

1. デジタルペーパーの教育における利用

○八木 耕司 (ソニービジネスソリューション株式会社)

2. 参加者による自由討論

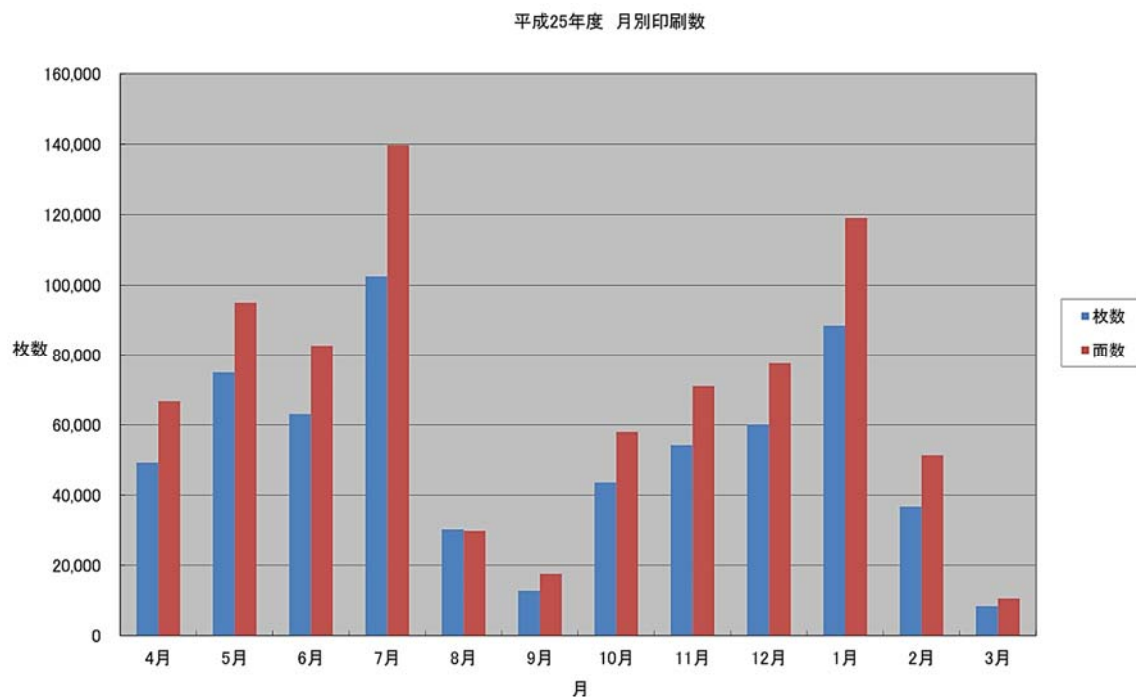


研究会会場の様子

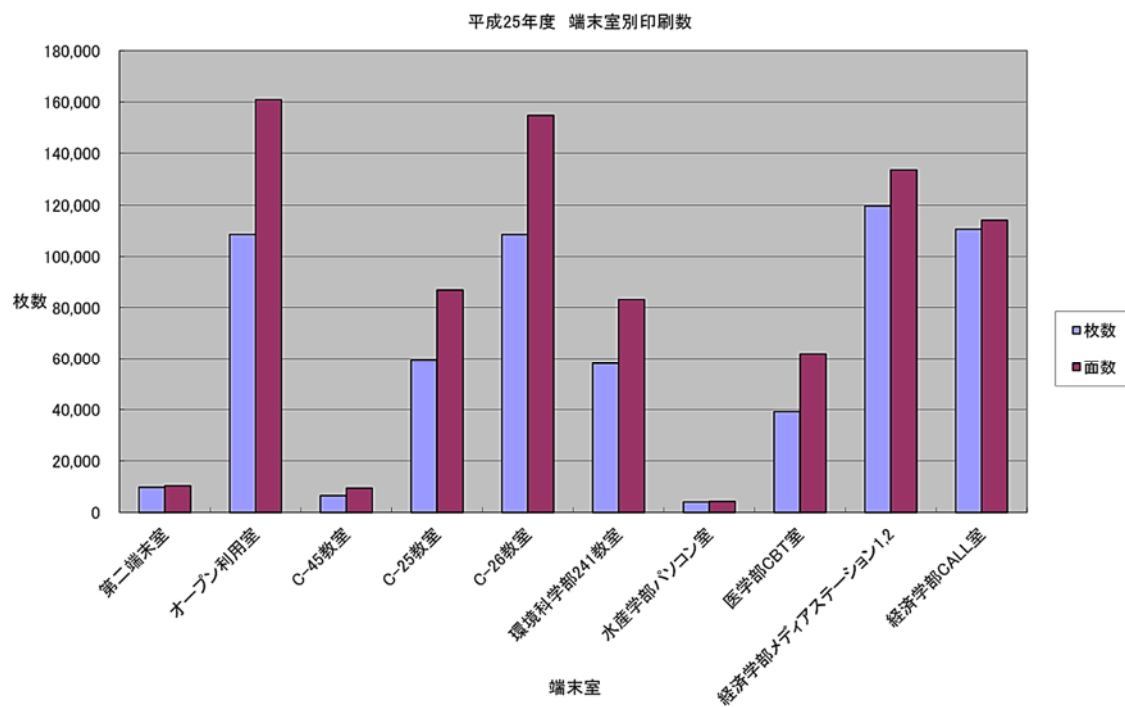
センター利用状況

1. プリンタ利用状況

(1) 月別印刷数



(2) 端末室別印刷数

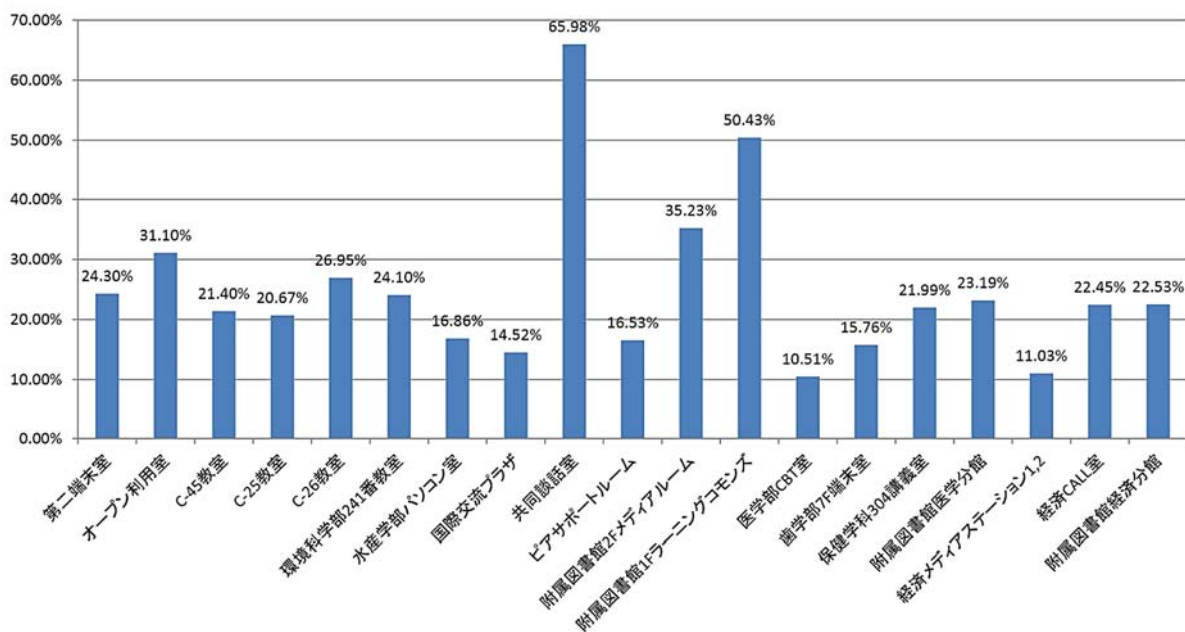


2. 端末利用状況

集計方法：(開館時間×開館日数×端末台数) / 総ログオン時間

全端末が開館時間中常時ログオンした状態を 100%として算出

平成25年度 端末利用状況



3. 端末教室利用状況

(1) 平成 25 年度前期

第二端末室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月		情報基礎 全学(藤井)	情報基礎 全学(藤井)	情報基礎 全学(野崎)	情報基礎 全学(藤井)
火		情報基礎 全学(丹羽)		情報基礎 全学(丹羽)	情報基礎 全学(丹羽)
水	情報基礎 全学(野崎)	情報基礎 全学(野崎)	情報基礎 全学(藤井)	計算力学演習 工学(松田)	計算力学演習 工学(松田)
木	情報基礎 全学(古賀)	技術英語 I 工学(安武)	情報基礎 全学(古賀)	情報基礎 全学(古賀)	情報基礎 全学(藤井)
金		情報基礎 全学(上繁)	情報基礎 全学(上繁)	問題解決のアルゴリズム 全学(古賀)	プログラミング演習 工学(阿部)

C-45 教室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月		総合英語Ⅲ 全学(小笠原)	基礎統計学 水産(GREG)	英語コミュニケーション I 全学(ウィリアム コルズ)	基礎解析アルゴリズム 工学(丸田)
火	韓国語Ⅲ 全学(沈)	韓国語Ⅲ 全学(沈)	総合英語 I 全学(小笠原)	情報基礎 全学(野崎)	
水	技術英語Ⅱ 工学(金丸)	情報基礎 全学(上繁)	情報基礎 全学(丹羽)	情報基礎 全学(丹羽)	
木	フランス語Ⅲ 全学(大橋)	英語コミュニケーションⅢ 全学(廣江)	ソフトウェアの利用技術 全学(丹羽 他)	情報基礎 全学(野崎)	
金			フランス語 I 全学(橋本)	フランス語 I 全学(橋本)	プログラミング演習 工学(石塚)

C-25 教室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月			情報基礎 全学(上繁)	情報基礎 全学(上繁)	基礎解析アルゴリズム 工学(浜崎)
火					
水	情報基礎 全学(古賀)	情報基礎 全学(古賀)	情報基礎 全学(柳生)	情報基礎 全学(柳生)	
木	情報基礎 全学(藤井)	電気電子工学実験 I 工学(田中)		情報基礎 全学(柳生)	
金			英語コミュニケーション I 全学(ウィリアム コルズ)	英語コミュニケーション I 全学(ウィリアム コルズ)	

C-26 教室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月			ことばと文化 I 全学(福田)	空間情報処理特論 工学(小川)	
火		工業数学 工学(小川)			教養セミナー 全学(西田)
水		空間情報処理学 工学(小川)	電気電子工学実験III 工学(阿部)	電気電子工学実験III 工学(阿部)	
木					教養ゼミナール 工学(小川)
金			社会環境デザイン 工学実験・演習 B 工学(小川)	社会環境デザイン 工学実験・演習 B 工学(小川)	社会環境デザイン 工学実験・演習 B 工学(小川)

(2) 平成 25 年度後期

第二端末室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月	応用情報処理 薬学(西田)	環境情報処理 環境(上繁)		環境情報処理 環境(上繁)	
火	情報の活用 教養教育(藤井/丹羽)	情報社会の安全と安心 教養教育(上繁) 14,15 回 薬物動態学 薬学(西田) 10/1-12/24			
水	社会調査論 II 環境(渡邊)				
木			CAE 実習 工学(木須・戎)	CAE 実習 工学(木須・戎)	
金		生物統計学 薬学(西田)	情報化時代の仕事術 教養教育(古賀)	情報化時代の仕事術 教養教育(古賀)	コンピュータ情報処理 工学(西田渉)

C-45 教室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月	総合英語 III 教養教育(奥田)	技術英語 III 工学(小林)			
火	英語コミュニケーション III 教養教育(川島)	総合英語 III 教養教育(川島)	総合英語 II 教養教育(奥田)		
水		英語コミュニケーション II 教養教育(ルール)	英語コミュニケーション II 教養教育(ルール)		
木	フランス語 IV 教養教育(大橋)	総合英語 III 教養教育(奥田)	情報化の役割と課題 教養教育(丹羽)	総合英語 II 教養教育(小笠原)	
金			フランス語 II 教養教育(橋本)	フランス語 II 教養教育(橋本)	

C-25 教室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月	計算機の科学 教養教育(野崎)	計算機の科学 教養教育(野崎)			
火					
水					
木			電気電子工学実験Ⅱ 工学(石塚)	情報通信とコンピュータ ネットワークのしくみ 教養教育(柳生)	
金			英語コミュニケーションⅡ 教養教育(ウィリアム コリンズ)	英語コミュニケーションⅡ 教養教育(ルール)	

C-26 教室

曜日	8:50~10:20	10:30~12:00	12:50~14:20	14:30~16:00	16:10~17:40
月		技術英語Ⅱ 工学(小川)			
火			社会環境デザイン工学 特別演習 A 工学(小川)	社会環境デザイン工学 特別演習 A 工学(小川)	
水	情報基礎 教養教育(柳生)		プロジェクト実験 工学(藤本)	プロジェクト実験 工学(藤本)	
木		実践英語 B 工学(小川)	技術英語Ⅰ 工学(金丸)	ソフトウェアの利用技術 教養教育(丹羽)	
金			プロジェクト実験 工学(藤本)	プロジェクト実験 工学(藤本)	

編集後記

大変遅くなりましたが、平成 25 年度（2013 年度）の情報メディア基盤センターの活動をまとめたセンターレポート 2013 を発行することができました。

平成 25 年度は本センターとしては次年度の大きな変化に向けた 1 年と言っても良い年度でした。ICT マスタープラン 2012 及び ICT アクションプラン 2012 に基づいた活動が本格的に開始されました。その中、平成 25 年 10 月 1 日に、松田浩前センター長にかわり、村田嘉弘センター長が就任しました。また特に大きな事柄としては、主体的学習促進支援システム（LACS）の利用が本格的にスタートしたことや、平成 26 年度入学者から開始のノートパソコン必携化に向けた準備が挙げられます。

平成 26 年度からは情報メディア基盤センターが ICT 基盤センターに改組され、ICT を活用した教育研究環境を提供するために、情報政策の企画立案・実施、高度情報化技術に基づく情報基盤の整備、教育の情報化及び情報教育の推進などを行ってまいります。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

(Y. U.)

長崎大学情報メディア基盤センターレポート 2013

発行 2015 年 3 月

編集・発行 長崎大学 ICT 基盤センター（旧 情報メディア基盤センター）

所在地 〒852-8521 長崎市文教町 1-14

電話番号 095-819-2222

ファクシミリ 095-819-2218